

労働者協同組合物語

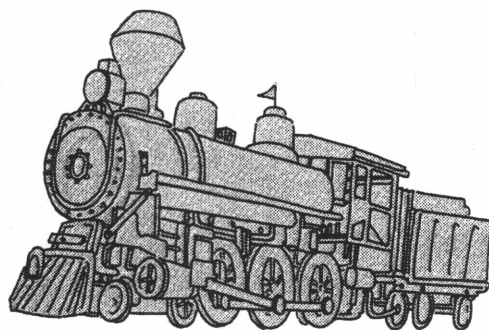
第1回：産業革命と協同組合

中川 雄一郎（協同総研理事長／明治大学）

国際協同組合同盟（ICA）には世界のさまざまな国で運動を展開している「労働者協同組合」（多くは連合組織）が加盟しています。またICAの傘下にCICOPAと呼ばれている国際的な労働者協同組合の連合体が組織されています。もちろん、日本労働者協同組合連合会はCICOPAにもICAにも加盟しています。ICAはこれまで、生協（消費者協同組合）を中心とした運動のプログラムを編成してきましたが、現実には生協以外の協同組合が数の上では多数を占めるようになってきています。特にクレジット・ユニオン（協同組合銀行あるいは協同組織金融機関）の発展には目覚ましいものがあります。同時に、協同組合運動の先進地域の西ヨーロッパ、北ヨーロッパそれに北アメリカの諸国では、福祉や雇用創出それにコミュニティ経済開発（コミュニティの再生）に関わる「新しい協同組合」として労働者協同組合が注目を集めてきています。このような国際的な状況を正しく捉えて、ICAは今では生協に偏らない活動プログラムを提示するようになっていきます。

ところで、このような協同組合運動の新たな状況を国際的に生み出すのに大きく貢献している労働者協同組合がスペイン・バスク州の「モンドラゴン協同組合企業体」（MCC）であることは、多くの協同組合人の認識する

ところですが、このMCCも思想的、理念的に労働者協同組合の伝統を引き継いでいます。イギリス、フランス、イタリアなどの国々での労働者協同組合運動の長い間にわたる蓄積があったればこそ、モンドラゴンに大規模な一だが、コミュニティに根ざした一労働者協同組合が成長し発展する一つの重要な条件が創りだされ得たのです。かくして、われわれは現在では、MCCに、コミュニティに根ざした労働者協同組合の一つの大きな頂点を見ることができるとのことです。そこで、労働者協同組合の歴史や思想、それに到達点をしっかり理解するために、「労働者協同組合物語」と題するシリーズを、まずは協同組合運動の発祥の地イギリスにその舞台を借りて語っていくことにしよう。



産業革命

協同組合運動だけでなく、その他のさまざまな労働運動を語るとき、世界で最初に起こったイギリスの産業革命(Industrial Revolution)について触れなければならない。産業革命の過程こそ、それまでの社会を構成していたさまざまな要素—人間、コミュニティ、都市と農村、生業・職業(農業、商業、手工業)、階級、所有など—の関係を変え、人びとの生活と労働を社会的に再編成したからである。一言で言えば、産業革命は、技術革新を牽引力として、人びとの社会的な生活条件と労働条件を激変させたのである。一般に、イギリスでは、紡績機の改良に端を発して1760年頃に産業革命が起こり、鉄道建設の普及によってそれは1840年代に終結した、と言われている。このおよそ80年もの間にわたって、生産力の増大およびそれによる人びとの生活条件と労働条件の変化を通じてイギリスの社会が大きく変化していくにつれて、「労働者」(working men)という意識が雇用されて働く人びとだけでなく、「機械との絶望的な闘争」に敗れて独立性を、したがってまた「地位と財産と諸権利」を失っていく熟練職人の間にも次第に定着していくことになる。そしてこの80年の間に、産業革命を担ったスコットランドやイングランドの諸都市での食料雑貨品を扱った、主に熟練職人たちによる生活防衛組織としての協同組合、ロバート・オウエンの有名な「ニュー・ラナークの実験」、ラディズム(ラディツ運動あるいは機械破壊し運動)、チャーティスト運動、10時間法運動、協同組合コンGRES、ロッヂデール先駆者組合などさまざまな種類の運動や活動が生起し、展開されたのである。

イギリス初期協同組合運動の歴史を遡ると、協同組合運動の出現が産業革命の展開とほぼ機を一にしていることが分かる。すなわち、記録として残っているもっとも古い協同組合である、テムズ川沿いのウリッジ(Woolwich)とケント州のメドウェイ川沿いのチャタム(Chatham)とにあった海軍工廠の船大工によって1760年に設立された協同製粉所と協同製パン所から始まって、スコットランドで1770年頃から1820年代初期にかけて展開された食料雑貨品の購入・供給の協同組合、そして1820年代から30年代にかけて展開されたオウエン主義の協同思想に基づいた「協同コミュニティ建設」の運動へと連なっていく。そして産業革命末期にあたる1844年に創設されるロッヂデール公正先駆者組合(The Rochdale Society of Equitable Pioneers)は、これらの初期協同組合運動が蓄積してきたさまざまな経験を経済的、社会的な変化に適応させて近代協同組合の創始になったのである。

初期協同組合のうち、製粉や製パンといった生産を基礎にした協同組合については、ウリッジとチャタムの協同組合の他に、イングランド北東部の港町ハルにおいて1797年に事業を開始したハル反製粉所(Hull Anti-Mill)、1801年に設立されたハルの第2の製粉所であるハル出資製粉所(Hull Subscription Mill)、1816年に設立されたケント州のシアネス経済協同組合(製パン所を設立)、それに1817年にイングランド南西部のデヴォンポートに設立された共同製粉所(Union Mill)が有名である。これらの製粉所や製パン所の形態の協同組合は小麦粉の「地域独占を握っていた製粉業者による価格の引上げ」や対仏戦争によるパン価格の高騰などに反対して設立された。(つづく)